

右具申ニ及候也

第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

北清ノ風雲益々險惡ニ赴クト共ニ海軍大臣ハ歐洲ニ於テ製造中ノ新艦ノ竣工ヲ急クヘキ旨訓令セシメ又各司令長官等ニ訓諭シテ有力ナル諸艦艇ヲ大至急役務ニ差支ナキ様準備セシメ事ニ臨ミ急ニ應スルニ於テ遺算ナカラシムコトヲ期セラレタルコトハ曩ニ海軍省ノ措置ト題スル項ニ於テ記スル所アリタルカ如シ
今艦船ノ準備ナル項ヲ設ケテ茲ニ説キ起サントスルニ當リ重複ヲ厭ハス更ラニ此等訓令ヲ掲上シ以テ其ノ本末ヲ明ニセントス

在倫敦造船造兵監督長上村海軍少將宛

在巴里造船監督官 伊東海軍大佐宛

在伯林造船監督官 林 海軍中佐宛

六月十一日夕發(電報)

角田海軍艦政本部長

清國ニ於ケル匪徒勢猖獗未タ平定ノ見込立タス此事或ハ大事件トナラン東洋形勢最モ警戒ヲ要ス故ニ八雲速ニ出艦最近航路ヲ取り寄港數ヲ減シ片時モ早ク歸著スル様取計フヘ

シ(本文中八雲トアルナ伊東大佐宛ニハ晋妻トシ、上村少將宛ニハ朝日トス、又上村少將宛ニハ出雲備後ヲ急ゲテ加フ)

井上横須賀柴山吳鮫島佐世保各鎮守府司令長官宛

東郷常備艦隊司令長官宛

日高竹敷要港部司令官宛

六月十二日發電報

山本海軍大臣

第八號

明治三十三年度戰時編制實施要領書第二款及第三款ニ掲クル各軍艦及水雷艇ハ此際大至急役務ニ差支ナキ様準備ヲ爲スヘシ但總檢査其他改造等大工事中ニアルモノハ可成速ニ工事竣工セシムル様取計フヘシ

井上横須賀柴山吳鮫島佐世保各鎮守府司令長官及東郷常備艦隊司令長官宛

六月十四日午後四時發電報(横須賀ト吳トハ郵便)

山本海軍大臣

第十四號

清國ニ於ケル政治上ノ動亂ノ爲メ云々(中畧)事變ノ狀況等就テハ今後如何ナル變態ニ陥ルヤモ計リ難キニ付キ貴官ハ此際一層部下ヲ戒飭督勵シテ何時ニテモ急ニ應シ得ヘキ様艦船軍隊等ノ整頓ヲ圖リ事ニ臨ミ遺算ナカラシムコトヲ希望ス

以上ハ一般ニ涉ル訓令ニシテ以下各艦船ニ關スル役務發差等ノ諸件ナリ然レモ先ツ事變ノ初ニ遡リ各艦ヲ網羅シテ全般ヲ看ルニ便セントス事變ノ初メ五月二十五日ニ於ケル常備艦隊ノ編制ハ軍艦十三隻ヨリ成レルコト第一項第三目ニ於テ表示セシカ如シ而シテ其中海外ノ任務ニ在ルモノハ左ノ如クナリシ

愛宕 北清

赤城 長江筋

筑紫 南清

須磨 同

大島 韓國

事變始マリテ笠置ハ五月三十日横須賀發テ以テ第一ニ北清ニ派遣セラレ次テ六月七日ニ至リ常磐吉野高砂秋津州須磨ノ五艦清韓露領沿岸巡航ノ件裁可セラレ内須磨ハ六月七日馬公發ニテ先ンシテ北清ニ派遣セラレ吉野ハ出羽司令官ヲ載セテ六月十六日徳山發ニテ北清ニ派遣セラレ常磐以下殘三艦ハ東郷司令長官親ヲ之ヲ率ヒテ六月十九日佐世保ヲ

發シ北清ニ向ヘリ

大沽沖ト陸トノ交通ノ爲メ驅逐艇以下ノ小艇ヲ要ストノ上申荐リニ至ルヤ陽炎ハ六月九日ヲ以テ佐世保ヲ發シテ北清ニ向ヒ隼ハ六月七日ヲ以テ派遣ノ裁可ヲ經六月十八日ニ至リ派遣ヲ命セラレタリ而シテ叢雲ハ六月十六日ヲ以テ同シク派遣ヲ命セラレキ

此ノ外豊橋ノ派遣アリ又鎮邊鎮中ノ派遣アリ是レ皆概ネ既ニ前項ニ詳悉セリ今只概要ヲ再記スルノミ而シテ以下ニ記スル所ハ未タ前項ニ顯ハレサルモノナリ

軍令部長ノ發議ニ依リ六月十四日左ノ訓令發セララル

井上横須賀鎮守府司令長官宛 六月十四日付(郵送)

山本海軍大臣

此際軍艦鎮東鎮北ハ隣邦ノ警備ニ充テラル、ヤモ難計ニ付戰團航海ノ役務ニ差支ナキ様大至急工事ニ着手スヘシ

右二艦ハ唯準備ノミニシテ終ニ派遣セラレスシテ止メリ

井上横須賀鎮守府司令長官宛 六月十五日午後三時發電報

山本海軍大臣

第二十二號

富士水中發射管ノ修理ハ此際十四海里迄ニ止メ至急完備セシムヘシ

鮫島佐世保鎮守府司令長官宛 六月十五日午後三時發電報

山本海軍大臣

第二十一號

富士水中發射管ノ修理ハ此際十四海里マテニ至急完備セシムヘキ旨横須賀鎮守府司令長官ヘ訓令候條此旨心得ヘシ

柴山吳鎮守府司令長官宛 六月十五日發電報

山本海軍大臣

第十九號

千歲明石ハ軍需品ヲ滿載シ速ニ佐世保ニ回航セシムヘシ

井上横須賀鎮守府司令長官宛 六月十五日發電報

齋藤海軍總務長官

淺間八重山ハ軍需品ヲ滿載シ速ニ佐世保ニ回航セシムヘキ命令ノ發布ノ手續中ニ付キ速ニ御手配アリタシ

鮫島佐世保鎮守府司令長官宛 六月十五日發電報

山本海軍大臣

第二十號

千歲明石ハ軍需品ヲ滿載シ速ニ佐世保ニ回航セヨト命令シタル旨又淺間八重山ニモ同様命令スル筈ノ旨常備艦隊司令長官ニ傳フヘシ
富士ハ一週間内ニテ工事落成ノ筈ニ付落成次第其軍港ニ歸航セシメヨ

井上横須賀鎮守府司令長官宛 六月十五日發電報

山本海軍大臣

淺間八重山第三海軍區へ回航セシメラル就ラハ速ニ軍需品ヲ滿載シ佐世保軍港へ回航セシムヘシ

千歲明石淺間八重山ハ各鎮守府艦隊所屬ナリ

在横須賀敷島

遠藤佐世保鎮守府艦隊司令官宛 六月十五日發(電報)

齋藤海軍總務長官

吳ニ回航入渠迄ノ間敷島ニ於テ施行スヘキ工事及事業ノ豫定日割報告アリタシ

齋藤海軍總務長官宛

六月十五日午後六時三十五分發(電報)
同 日午後七時四十五分著

在横須賀敷島 遠藤佐世保鎮守府艦隊司令官

敷島吳へ回航ニ必要ナル機關ノ工事ヲ爲シ二十五日吳へ向ケ出艦ノ豫定

井上横須賀鎮守府參謀長宛 六月十六日午後五時三十五分發(電報)

瓜生海軍軍令部第一局長

軍艦龍田ハ七月上旬赤城ノ交代トシテ清國へ派遣セシメラル、豫定ノ旨曩ニ内牒及置キ
シカ今般右詮議ハ取止メニ相成リ更ニ常備艦隊ニ編入ノ上警備ノ爲メ清國及韓國へ派遣
セシメラル、第二付命令次第出港シ得ラル、様至急準備セラレタシ
(註)龍田ハ鎮守府艦隊所屬ナリ

龍田派遣ノ訓令等ハ龍田派遣ノ項ニ詳ナリ

鯨島佐世保鎮守府司令長官宛 六月十七日午後三時二十五分發(電報)

山本海軍大臣

第三十七號

左ノ通常備艦隊司令長官ニ傳ヘヨ

軍艦高雅常備艦隊ニ編入セラレ帝國居留臣民保護ノ爲メ清國へ派遣セシメラル同艦ハ上海ニ急航シ赤城ト協同シテ長江筋ニ於ケル警備ノ任務ニ服スヘキ旨直接訓令セリ同艦長ハ成田中佐ナリ委細郵便

六月十八日淺間八重山千歳千代田明石宮古摩耶鎮守府艦隊ヨリ轉シテ常備艦隊ニ編入セシメラレ(内令第(六四號)左ノ通電訓セラル

鯨島佐世保鎮守府司令長官宛 六月十八日午後四時三十分發(電報)

山本海軍大臣

第三十九號

左ノ通常備艦隊司令長官ニ傳ヘ且ツ貴官モ心得ヘシ

常備艦隊軍艦淺間八重山千歳千代田明石宮古摩耶ハ清國及韓國沿岸ヲ巡航セシメラル但シ其出航スヘキ時日ハ追テ訓示スヘシ

六月十八日富士八島鎮守府艦隊ヨリ轉シテ常備艦隊ニ編入セシメラレ
嚴島大和ハ豫備艦ヨリ鎮守府艦隊ニ編入セラレタリ(内令第
六四號)

鮫島佐世保鎮守府司令長官宛

六月十八日午後五時發電報

齋藤海軍總務長官

第四十四號

常備艦隊ニ尙一名司令官ヲ置カル、筈就テハ其旗艦ハ八島ニ指定セラル、様致シタシ

東郷常備艦隊司令長官宛 六月十八日午後五時三十分發電報

山本海軍大臣

第四十六號

常磐高砂秋津洲ヲシテ直ニ出航準備ヲ爲サシムヘシ有馬司令官ハ淺間其港ニ入港ニ付キ
之ニ轉乘セシムル様取計フヘシ

鮫島佐世保鎮守府司令長官宛

六月二十一日午後零時十五分發電報

第七十八號

齋藤海軍總務長官

左ノ電報常備艦隊司令長官ニ傳ヘラレタシ
四十四號及四十六號電報司令官旗艦指定ノ件ヘ取消シ遠藤司令官ハ此際富士ニ乘艦セシ
メラレタリ

鯨島佐世保鎮守府司令長官宛

六月十八日午後六時三十分發(電報)

山本海軍大臣

第四十九號

左ノ通常備艦隊司令長官ニ傳ヘヨ

一、清國大沽ニ於テハ十七日午前列國ノ聯合軍ト清兵ト砲火ヲ交ヘタリトノ情報ニ接セリ
二、貴官ハ直ニ常磐高砂秋津洲ヲ率ヒテ大沽ニ急航シ已ニ同地方ニ派遣セラレ居ル各艦船
ヲ統ヘ列國聯合軍ト協同シテ動作スヘシ

三、(略ス)

四、有馬司令官ハ高砂ヨリ他ニ轉乘セシメ其ノ地ニ留マラシムヘシ
(以下略ス)

東郷常備艦隊司令長官宛 六月十九日午前十一時三十分發(電報)

0358

四十九號電報ニ對スル行動ハ何時始メラル、ヤ返電待ツ

齋藤海軍總務長官

齋藤海軍總務長官宛

六月十九日午後五時三分發
同日午後七時二十三分著(電報)

有馬常備艦隊司令官

四十九號電報ニ對シ司令官ハ三隻ヲ率ヒ今朝午前八時大沽ニ向テ急速出艦セラル

角田海軍艦政本部長宛

六月十九日午前十一時三分發
同日午前十一時五十八分著(電報)

片岡吳鎮守府艦政部長

嚴島改造過半竣工中止スルコト能ハス直ニ大至急工事ノ命令次第竣工事ヲ出來得ル限リ
省キ七月十五日迄ニ竣工ノ管蒸溜機械ヲ備付クレハ八月十五日迄要スル見込

柴山吳鎮守府司令官宛 六月十九日發(電報)

山本海軍大臣

第五十六號

嚴島大至急工事ヲ施シ七月十五日迄ニ竣工セシムヘシ但シ蒸溜機械ハ此際備付クルニ及
ハス

角田海軍艦政本部長宛

六月十九日午前十時五十三分發(電報)
同 日午後零時五十分著

片岡吳鎮守府艦政部長

浪速兵器改正工事取直ニ大至急工事ノ命令次第修理ヲナサハ八月十五日マテニ竣工ノ
筈然シナカラ當時工事進行著シク機械据付ノ爲メ八月十五日掛ル内ニ兵器改正ハ竣工其
他必要ナル蒸氣舵機ヲ製造シテ八月三十一日迄ニ修理完結ノ筈改正工事ノ進行ヲ望ム

柴山吳鎮守府司令長官宛 六月二十日發電報

山本海軍大臣

浪速改造大至急工事ヲ施シ八月三十一日マテニ竣工セシムヘシ

有馬常備艦隊司令官宛 六月二十日發電報

山本海軍大臣

第六十九號

軍艦八島ハ常備艦隊ニ編入セラレタルモ目下第八號艦入換中ニテ何時ニテモ之カ復舊工
事ヲ行ヘハ三日間ニ竣工スヘキヲ以テ依然入換工事ヲ續行スヘキ旨横須賀鎮守府司令長
官ニ直接訓令セリ

井上横須賀鎮守府司令長官宛

六月二十日發電報

山本海軍大臣

第六十八號

軍艦八島第八號艦入換工事ヲ續行スヘシ但シ命令アルトキハ三日間ニ復舊工事ヲ竣工セシムヘキコトニ注意スヘシ

以上ノ記事ヲ以テ軍艦ノ準備ハ一段落ヲ告ケタリ即チ六月二十日ニ於ケル役務ハ左表ノ如シ

軍艦役務表

明治三十三年六月二十日調

艦隊	常備			役務	本籍
	高砂	高砂	淺間	横須賀鎮守府	
	和泉	龍田	八重山		
		愛宕	鎮遠		
明石	千代田	鎮中	常磐	吳	
摩耶	筑紫	八島	吉野	鎮守府	
	赤城	千歲	鎮邊		
	大島	笠置	富士	佐世保鎮守府	
		須磨	松島		
		秋津洲	宮古		

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三二三

0361

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

艦別	豫備				測量艦	練習艦	鎮守府艦隊		旗艦	派遣	海外
	特別	第三	第二	第一			旗艦	隊			
朝日英	操江	橋立			武藏	扶桑	扶桑	扶桑	淺間	高雄	高砂
初瀬英	鎮東	浪速				天城		武藏	馬有	江長	清北
磐手英	鎮北	平遠				豐橋				和泉	龍田
三笠英		天龍		筑紫全		金剛		嚴島		清南	清北
出雲英						比叡		大和	常磐	鎮中	常磐
									鄉東	清北	清北
									吉野	筑紫	吉野
									羽出	清南	清北
										赤城	鎮邊
										江長	清北
八雲獨	鎮西	高千穂		鳥海全	磐城			敷島	富士	大島	笠置
吾妻佛		海門			葛城			濟遠	藤遠	韓	清北
千早橫		鎮南									須磨
											清北
											秋津洲
											清北

三二四

0362

備考 艦名ニ〇ヲ附セルハ役務ヲ兼ヌルモノ、全ハ全定員ナルヲ示ス又特別
 豫備艦ノ下英獨等トアルハ製造地名ヲ示スモノナリ

當時常備艦隊ノ諸艦ニシテ本邦ニ留マレルモノ左ノ如クニシテ分遣出
 征艦隊ト區別スル爲メ稱呼ノ便宜ニ從ヒ俗ニ之ヲ留守艦隊ト云ヘリ即
 チ海軍ノ主力ナリ

淺間 有馬司令官
旗艦 富士 遠藤司令官
旗艦 八島

鎮遠 松島 千歲

千代田 明石 宮古

八重山 摩耶

右ノ内八重山ヲ上海ニ派遣スヘキ旨六月二十四日午後四時發電報第百
 七號ヲ以テ大臣ヨリ有馬司令官ニ訓令セラレタリ

井上横須賀柴山吳鮫島佐世保三鎮守府司令長官宛

六月二十四日午前十時三十分發(電報)

齋藤海軍總務長官

第二百號

戰時事變ニ對スル諸準備ハ大臣ヨリ已ニ通達セラレタル事項ノ外ハ未タ著手スヘキモノ
ニアラス故ニ實地ニ就キ計畫豫算スルニ止メ置カルヘシ

六月二十二日達第二百一十一號ヲ以テ艦艇類別標準ヲ定メラレ驅逐艦ノ
名新ニ生シ從前各水雷艇隊ニ分屬シタル驅逐艦十二隻ハ二分セラレテ
「ヤーロー」社製造ノ六隻(一字名)ハ横須賀鎮守府ヲ本籍ニソル子クロフト
社製造ノ六隻(二字以上ノ名)ハ佐世保鎮守府ヲ本籍ニ改メラレ又之ト同
時ニ各水雷艇隊ノ編制ヲ改メラレタリ而シテ當時艦底修理中ニ在リタ
ル不知火ノ豫備艦タル外他十一隻ハ六月二十二日內令第七十三號ヲ以
テ悉ク常備艦隊ニ編入セラレタリ
六月廿六日豊橋亦常備艦隊ニ編入セラレ(內令第八二號)次テ不知火(內令第九四號)ハ七月

0364

二十日ヲ以テ高千穂、扶桑、敷島、濟遠ハ(内令第九七號)八月一日ヲ以テ鳥海ハ(内令第九號)八月十一日ヲ以テ嚴島大和ハ(内令第一〇〇號)八月十五日ヲ以テ並ニ常備艦隊ニ編入セラル是ヲ以テ當時大工事中ニ在リタル數艦ヲ除キ皆悉ク常備艦隊ニ入り恰モ大出師準備完整ノ趣アリ而シテ鎮守府艦隊ニ關シテハ左ノ如ク通牒セラレタリ

海軍各部長官宛

八月三日付(郵送)

齋藤海軍總務長官

今般横須賀佐世保兩鎮守府艦隊ノ諸艦ハ總テ常備艦隊ニ編入相成候ニ付テハ當分ノ内右兩鎮守府艦隊ハ之ヲ置カレサル筈ニ有之候條此段爲念及御通知候也

吳鎮守府艦隊ニ關シテモ右ト同シク當分之ヲ置カレサル旨八月十五日付ヲ以テ通牒ヲ發セラレタリ

附

人員ノ補充

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三一七

0365

海軍カ這般ノ事變ニ際シ艦船ノ殆ント全部ヲ就役セシメタルハ前ニ述
フル所ノ如シ而シテ之ニ伴フ人員ハ未タ豫備役後備後ヲ召集スルニ至
ラスシテ大學校軍醫學校主計官練習所及砲術水雷術機關術三練習所ノ
學生ヲ一時補職シ或ハ其ノ練習生ノ速成ヲ圖ラシメ以テ配員スルヲ得
タリ是レ事變ノ進行上先ツ海運部及運送船ノ特設配置ハ之ヲ要セシモ
未タ其ノ他ノ戰時特設部隊ハ其ノ開催ヲ見ルニ至ラスシテ局面ノ限度
ヲ策定スルヲ得タルニ因ルモノタルヲ信ス

左ニ學校練習所ニ於ケル學生ノ出入及ヒ之ニ關聯スル訓示令達等ヲ揭
ケ又其ノ當時配員補職ノ狀況ヲ知ラシムル爲末尾ニ名簿ヲ附シ以テ本
記事ヲ結フ

海軍大學校學生(三十三年海軍省年報抄録)

本學年ノ初期ニ於テハ海軍大演習アリ本校學生ハ之ニ從事シ尋テ六月ニ至リ北清事件ノ
爲メ機關科學生ヲ除クノ外一時皆他ニ補職セラレタルヲ以テ將校科學生ニ對スル課業時
間數ニ至テハ例年ニ比スレハ極メテ僅少ナリ云々

0366

區別	前年度末日現員	三十三年度間		三十四年三月三十一日現員
		就學卒業退學	間	
將校科	選科 一九二九	四	一三	一八二八
機關科	四	一	一	三
總計	二五	三四	一三	二三

(備考) 將校科ニ於テ例年ニ比シ就學并退學ノ多キハ北清事件ノ爲メ一時他ニ就職シ後再ヒ就學シタルカ爲ナリ

海軍々醫學校學生(三十三年度海軍省年報抄録)

前年度ヨリ就學ノ學生^{前年度}四十一人中十三人ハ六月二十三人ハ十二月二人ハ三十四年二月各教程ヲ修了シタルヲ以テ退校シ三人ハ疾病等ノ爲メ候補生ヲ免シタリ而シテ本年度ニ於テ新ニ就學シタル學生ニシテ軍醫十人ハ北清事件ノ爲メ六月ニ至リ皆退校補職セシカ十二月ニ至リ更ニ十人就學セリ候補生十六人モ亦同月就學セリ又選科學生軍醫少監二人ハ一月ヲ以テ就學セリ以上ノ出入ヲ經テ本年度末即三十四年三月三十一日修學中ノモノハ總計二十八トス

0367

海軍主計官練習所學生三十三年度海軍省年報抄録

(前略)前年度ヨリ就學ノ者總計三十九人ニシテ本年度間就學シタル學生ハ主計官十三人候補生五人練習生二十七人トス右ノ内主計學生十五人ハ北清事件ノ爲メ本年六月退所一人ハ是レヨリ先キ退所シ又主計學生二人候補生學生六人ハ共ニ三十四年一月ヲ以テ練習生十七人ハ三十三年六月ヲ以テ卒業シ本年度未尙練習中ニアル者ハ總計四十三人ナリ

海軍砲術練習所長

海軍水雷術練習所長宛

六月十八日付號外(書面)

海軍機關術練習所長

諸岡海軍教育本部長

目下練習中ノ練習生ハ成ルヘク速カニ卒業セシムル様取計フヘシ

海軍砲術練習所長

宛

六月二十二日付教一第九號(書面)

海軍水雷術練習所長

加藤海軍教育本部長

曩キニ目下練習中ノ練習生ハ成ルヘク速ニ卒業セシメラル、様教育本部長ヨリ通達相成候處尙ホ是等練習生ハ試験結了次第成績調査ヲ待タスシテ直ニ復歸セシメ試験成績ハ後ヨリ調査濟ノ上各所轄長へ通知セラル、様御取計相成度此段申進候也

諸岡海軍教育本部長宛

六月二十三日付砲練教第八二號(書面)

海軍砲術練習所長

掌砲証狀并ニ砲術教員適任証書有効延期ノ義ニ付伺

今般海總第五九六號ヲ以テ現ニ掌砲兵ノ有スル掌砲証狀并ニ砲術教員適任証書有効延期相成候處本所ニ於テハ本月二十日ヨリ同三十日マテニ入所スヘキ第九期教員復習教程并ニ第十三期掌砲兵復習教程ニテ入所セシモノ、進退ハ如何取計候テ可然哉何分ノ義御指
令仰キ度此段伺候也

右ニ對スル指令

六月二十五日付教普第一〇八號ノ二(書面)

砲練教第八二號伺本月二十日ヨリ同三十日マテニ入所スヘキ豫定ノ第九期教員教程復習者并ニ第十三期掌砲兵教程復習者ハ入所セシメサル儀ト心得ヘシ

追テ既ニ入所セシモノハ直ニ前所屬ノ艦團其他各部ニ復歸セシムヘシ

六月二十六日付海總第七六一號海軍大臣訓令(摺物)

明治三十二年以後ニ告達シタル各練習所練習生ニ採用スヘキ人員ニシテ採用未済ノ分ハ更ニ何分ノ達アルマテ採用ヲ見合ハス儀ト心得ヘシ

七月九日付海總第九七四號海軍大臣訓令(摺物)

海軍砲術練習所規則第七條及海軍水雷術練習所規則第七條ニ依リ砲術若クハ水雷術ノ復習ヲ志願スル者ノ願書ハ何分ノ告達アル迄提出セシムルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

諸岡海軍教育本部長宛 七月九日付海總第九九二號(書面)

山本海軍大臣

海軍砲術練習所海軍水雷術練習所及海軍機關術練習所ハ何分ノ達アル迄夏期休暇ヲ止メ練習生ノ練習ヲ繼續セシムル儀ト心得ヘシ

海軍水雷術砲術機關術各練習所長宛 七月十日付教普一六二號ノ二(書面)

諸岡海軍教育本部長

別紙(前)海總第九九二號ヲ以テ何分ノ達アル迄練習ヲ繼續スヘキ旨被達候條此旨及傳達候也

加藤海軍教育本部長第一部長宛 八月六日付號外(書面)

内田海軍水雷術練習所長

本所練習生モ卒業ノ期近々差迫リ彙ニ報告仕候通リ本月中ニハ掌水雷兵ト成ルヘキ分ハ終業ノ等ニ有之水雷工ハ來月中ニ卒業ノ等ニ有之候就テハ當時ノ練習生統テ終業ノ上ハ如何ノ御都合ニ相成候ヤ御内々伺度候實ハ各所ヨリ本所下士教員ノ内一等下士ヲ上

等兵曹心得トシテ轉勤致サテハ如何ト續々交渉有之候得共此ノ先練習ノ都合ニテハ轉勤
モ致サセ兼候間伺次第ニ有之即チ若シ練習所ヲ閉鎖サル、コトニ相成候得ハ本人共ノ名
譽ニモ有之轉勤ノ方可然存候得共若シ之ニ反シ其ノ内練習生ヲ募集練習ヲ繼續サル、コ
トニ相成候ハ、教員ハ容易ニ難得候間轉勤ハ甚タ不都合ニ有之候間前顯ノ通伺次第ニ有
之候何卒御差支無之候ハ、此ノ先ノ御都合御内報ヲ煩度候也

海軍砲術水雷術機關術各練習所長宛 八月八日付教一第二〇號(書面)

加藤海軍教育本部第一部長

(機關術練習所ニ對シテハ第二
部長ヨリ教一第一一號ヲ以テ)

八月六日附書面御申越ノ趣領承貴練習所ハ現在練習生全部卒業ノ上ハ當分跡練習生募集
不相成御内議ニ有之候右御合迄及御内報候也

追テ現在ノ練習生卒業退所ノ時期ニ到ラハ其ノ旨御報告相成度此段申添候也

各鎮守府司令長官宛 八月一日付海總第一五八八號(書面)

山本海軍大臣

本年度ニ於テ採用スヘキ信號練習生ノ教育ハ實務ニ支障ナキヲ度トシ成ルヘク速成ヲ期
スヘシ

九月十二日付海總第二二五三號海軍大臣訓令摺物

明治三十三年以後ニ告達シタル各練習所練習生ニ採用スヘキ人員ニシテ採用未済ノ分ハ更ニ何分ノ達アルマテ採用ヲ見合ハス儀ト心得ヘキ旨本年海總第七六一號ヲ以テ達シ置キタル處掌砲兵掌水雷兵機關工トナスヘキ練習生ハ此際之ヲ採用スヘシ

十一月十六日付海總第三一〇六號海軍大臣訓令(摺物)

本年海總第九七四號ヲ廢ス

十一月十九日付海總第三一二二號海軍大臣訓令(摺物)

本年海總第七六一號ヲ廢ス

海軍砲術練習所(三十三年度海軍省年報抄録)

下士卒練習生ノ前年度ヨリ就學ノ者百四十七人本年度就學ノ者五百四十三人トス而シテ第八期教員復習教程ノ十一人第二十一期教員教程ノ三十一人第十二期掌砲兵復習教程九人第四十期掌砲兵教程九十六人^{内三人}免除ハ共ニ三十三年八月第四十一期掌砲兵教程百四十六人^{内三人}免除ハ九月ヲ以テ其他教員適任證書繼續者七人ノ卒業シタル者通計二百九十四人ナリ本年度尙練習中ニアル者三百九十八トス

海軍水雷術練習所(三十三年度海軍省年報抄録)

練習生ニシテ前年度ノ就學ニ係ル第十四期教員長教程一人ハ五月第十五期教員長教程十五人ハ六月第十九期練習生長教程四人并第二十期練習生九十五人ハ六月及七月第九期水雷工教程三十五人ハ九月ヲ以テ終業シタリ

本年度ノ就學ニ係ル者ノ内第四期教員短教程三人ハ七月第二十一期練習生長教程九十五人及第十四期練習生短教程十六人ハ八月ヲ以テ終業シ又第十一期教員適任證書繼續者五人ハ六月第十二期同一人ハ試験ニ及第セリ其他疾病落第等ノ爲メ練習生ヲ免シタル者十五人本年度末尙練習中ニ在ル者二百八十二人トス而シテ以上ノ卒業者ハ三十三年六月以降目下練習中ノ練習生ハ可成速ニ卒業セシムヘシトノ旨趣ニ基キ授業時間ヲ増加シ或ハ休業ヲ止メ以テ專ラ速成ヲ企圖シ各卒業期ヲ短縮シタル者ナリ

海軍機關術練習所(三十三年度海軍省年報抄録)

本年度ニ於ケル教育狀況ヲ略述スルニ各兵種ヲ通シテ總テ實地ノ應用ニ適切ナル學技ヲ修メシメ殊ニ機關工船匠工兵器工練習生ニ在テハ最モ重キヲ工業ニ措キ他日艦船ニ配乗ノ上ハ應急及小修理ヲ爲サシムルニ當リ遺憾ナキコトヲ期セリ而シテ前年度ヨリ就學ノ第四期機關工五十人ハ四月第五期機關工三十二人第二期船匠工十人第二期兵器工十人ハ共ニ六月第六期機關工三十二人^{他ノ四}人免除ハ七月第七期五十七人^{他ノ一}人免除ハ十月ヲ以テ卒業シ又タ本年度ニ於テ就學シタルモノ總計二百十九人ノ内第一期機關術十人ハ九月第八期機關工五十七人^{他ノ三}人免除第三期船匠工十九人^{他ノ一}人免除第三期兵器工七人^{他ノ二}人免除共ニ三十四年三月卒業シ其他ノ百二十人ハ本年度末尙練習中ニ在リ

海軍高等武官名簿(明治三十三年八月十五日現在)

〇ハ一級俸
○ハ二級俸

臺灣總督府海軍參謀長	少將	竹敷要港部司令官	艦政本部長兼將官會議々員	軍令部出仕兼將官會議々員	大臣	常備艦隊司令長官	佐世保鎮守府司令長官	吳鎮守府司令長官	橫須賀鎮守府司令長官兼將官會議々員	中將	軍令部長兼將官會議々員	元帥(內務大臣、議定官)	大將
勳二	從四	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三
黑岡帶刀	高等官二等	日高壯之丞	角田秀松	威仁親王	山本權兵衛	東郷平八郎	鮫島員規	柴山矢八	男爵井上良馨	高等官一等	子爵伊東祐亨	侯爵西郷從道	高等官親任
常備艦隊司令官	海軍將官會議々員	軍令部次長兼將官會議々員	造船造兵監督長	吳鎮守府艦政部長	佐世保鎮守府艦政部長	橫須賀港務部長兼橫須賀豫備艦政部長	水路部長	吳港務部長兼吳豫備艦政部長	兵學校長	橫須賀鎮守府艦政部長	教育本部長兼將官會議々員	常備艦隊司令官	
功勳正四四	功勳正四四	功勳正四四	功勳正四四	功勳正四四	功勳正四四	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四三	功勳正四四	功勳正四四	功勳正四三	功勳正四三
齋藤實	出羽重遠	三善克己	伊集院五郎	上村彥之丞	片岡七郎	尾本知道	新井有貫	肝付兼行	三浦功	河原要一	松永雄樹	諸岡賴之	有馬新一

朝日艦長 ● 功勳從四五	佛國公使館附 ● 功勳從四五	待命 ● 功勳從四五	富士艦長 ● 功勳從四五	休職 ● 功勳從四五	休職 ● 勳四	初瀬艦長 ● 功勳從四五	八島艦長 ● 功勳正四五	横須賀海兵團長 ● 功勳正四五	休職 ● 功勳正四五	待命 ● 勳正四五	大佐 高等官三等	常備艦隊司令官 ● 勳正五	佐世保港務部長兼佐世保豫備艦部長佐世保海運部長 功勳正四五	軍令部第二局長 ● 勳正五
三須宗太郎	伊東義五郎	伊藤常作	上村正之丞	櫻井規矩之左右	矢部興功	植村永孚	島崎好忠	舟木鍊太郎	澤良渙	平尾福三郎		遠藤喜太郎	内田正敏	爪生外吉
兵學校教頭 ● 功勳從四五	休職	佐世保水雷團長 ● 功勳從四五	英國ニ於テ製造ノ軍艦三隻回航委員長 ● 功勳從四五	待命 ● 功勳從四五	淺間艦長 ● 功勳從四五	人事局長心得 ● 功勳從四五	八雲艦長 ● 功勳從四五	敷島艦長 ● 功勳從四五	侍從武官 ● 功勳從四五	水路部測量科長 ● 功勳從四五	休職 ● 功勳從四五	横須賀鎮守府參謀長 ● 功勳從四五	休職 ● 勳從四五	休職 ● 功勳從四五
富岡定恭	藤田幸右衛門	餅原平二	早崎源吾	石井猪太郎	細谷資氏	橋元正明	東郷正路	向山愼吉	井上良智	高木英次郎	柏原長繁	鹿野勇之進	外記康昌	小田亨

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三二七

0375

軍令部出仕 ● 功勳從四四五	新納時亮	嚴島艦長	功勳從四四五	新島一郎
臨時建築部支部長 ● 功勳從四四五	中溝德太郎	出雲艦長	功勳從四四五	井上敏夫
兼雜鶴水雷團長 ● 功勳從四四五	梨羽時起	待命	功勳從四五	友野雄介
鎮遠艦長 ● 功勳從四四五	遠藤増藏	待命	功勳從四五	加藤重成
待命	酒井忠利	千歲艦長	功勳從四四五	中尾雄
吉野艦長 ● 功勳從四四五	大塚暢雄	東宮武官	功勳從四四五	武富邦鼎
韓國公使館附 ● 功勳從四四五	徳久武宜	待命	功勳從四五	安原金次
吳海兵團長 ● 功勳從四四五	小倉鋺一郎	松島艦長	功勳從四五	大井上久磨
吾妻艦長 ● 功勳從四四五	山田彦八	吳鎮守府參謀長	功勳從四五	矢島功
英國於製造ノ軍艦警手同航委員長 ● 功勳從四四五	中山長明	水雷術練習所長 兼技術會議々員	功勳從四五	内田善太郎
佐世保海兵團長 ● 功勳從四四五	丹治寛雄	常備艦隊參謀長	功勳從四五	島村速雄
常磐艦長 ● 功勳從四四五	永峯光孚	軍令部第二局長兼 技術會議々員	功勳從四五	玉利親賢
笠置艦長 ● 功勳從四四五	坂本俊篤	伊國公使館附	功勳從四五	鏑木誠
大學校長心得	武井久成	吳水雷團長	功勳從四五	大久保保喜造
高千穂艦長 ● 功勳從四五	山内萬壽治	副官	功勳從四五	寺垣猪三
吳造兵廠長兼技術 會議々員				

艦政本部第一部長兼技術會議々員造船兵監督長	從五	北古賀竹二郎	中佐	高等官四等	松枝新一
造兵監督官	從五	岩崎達人	●	勳五	荒木亮一
軍務局第一課長兼第二課長教育本部第一部長	從五	加藤友三郎	●	勳五	成田勝郎
佐世保鎮守府參謀長	從五	吉松茂太郎	●	勳五	大田盛實
兵學校監事長兼筑波艦長	從五	宮岡直記	●	勳五	今井寬彦
軍令部第三局長兼技術會議々員	從五	中村靜嘉	●	勳五	上原伸次郎
砲術練習所長	從五	高桑勇	●	勳五	梶川良吉
須磨艦長	從五	成川揆	●	勳五	淺井正次郎
高砂艦長	從五	瀧川具和	●	勳五	野元綱明
艦政本部第二部長	從五	松本和	●	勳五	伊東吉五郎
臺灣總督府海軍參謀	從五	藤井較一	●	勳五	高橋助一郎
扶桑艦長	從五	今井兼昌	●	勳五	伊地知季珍
和泉艦長	從五	齋藤孝至	●	勳五	坂本一
千代田艦長	從五	松本有信	●	勳五	竹内平太郎
常備艦隊航海長	從五	有川貞白	●	勳五	
			愛宕艦長	●	
			豐橋艦長	●	
			造兵監督官	●	
			濟遠艦長	●	
			葛城艦長	●	
			露國公使館附	●	
			常備艦隊第二驅逐隊司令心得	●	
			八重山艦長	●	
			赤城艦長	●	
			大和艦長	●	
			明石艦長心得	●	
			高雄艦長	●	
			秋津洲艦長心得	●	
			筑紫艦長	●	

第一編 第十七項 艦政ノ準備 附人員ノ補充

三二九

四三

0377

常備艦隊第一驅逐隊司令心得	● 正六	伊地知彦次郎	待命	● 正六	天笠喜三
水路部圖書科長兼大學校教官	● 正六	今泉利義	大島艦長	● 正六	小橋篤藏
竹敷要港部參謀長	● 正六	津田三郎	磐城艦長	● 正六	松居銓太郎
造兵監督官	● 正六	岩本耕作	八島副長	● 正六	和田賢助
武藏艦長	● 正六	井手麟六	水路部測器科長兼大學校教官	● 正六	丹羽教忠
米國公使館附	● 從五	男爵西 紳六郎	橫須賀水雷團第一水雷敷設隊司令兼第二水雷敷設隊司令技術會議々員	● 正六	南 義親
軍令部副官	● 正五	佐伯 闌	佐世保鎮守府副官	● 正六	新井次郎
朝日副長	● 正五	飯田篤之進	水路部測量科々員	● 正六	高橋守道
宮古艦長	● 正五	八代六郎	淺間副長	● 正五	毛利一兵衛
龍田艦長	● 正五	志賀直藏	佐世保港務部部員	● 正六	丸尾楨治郎
須賀賀港務部々員兼橫須賀豫備艦部々員	● 正六	酒井正房	吾妻副長	● 正五	小泉鏢太郎
休職	● 正六	安住保弘	敷島副長	● 正五	大野寅尾
鳥海艦長	● 正五	中村貞邦	富士副長	● 正五	横尾純正
摩耶艦長	● 正五	佐々木廣勝	吳測器庫主管	● 正五	岸 榮太郎
待命	● 正五	栗田伸樹	砲術練習所教官兼技術會議々員兼大學校教官	● 正五	高崎宗次郎

佐世保水雷團馬公 水雷敷設隊司令 ● 正六 勳五	常磐副長 ● 正五 勳五	竹敷要港部知港事 ● 正六 勳五	大學校副官 ● 正六 勳五	松島副長 ● 正五 勳五	吳水雷團第一水雷敷設 隊司令兼第二水雷敷設 隊司令 ● 正五 勳五	人事局第一課長心 得兼第二課長心得 ● 正五 勳五	兵學校水雷術教官 ● 正五 勳五	嚴島副長 ● 正五 勳五	出雲副長 ● 正五 勳五	吳鎮守府參謀兼海 軍砲臺監督官 ● 正五 勳五	敷島航海長 ● 正六 勳六	千歲副長 ● 正五 勳五	八雲副長 ● 正六 勳六	佐世保鎮守府參謀 兼海軍砲臺監督官 ● 正六 勳六	花田滿之助 佐伯胤貞 中川藤次郎 黑水公三郎 長井群吉 牧村孝三郎 土屋保 宮地貞辰 木村浩吉 高木助一 但馬惟孝 池中小次郎 松村直臣 加藤定吉 大城源三郎	笠置副長 待命 韓國公使館附 待命 鎮遠副長 休職 高千穂副長 高砂副長 吉野副長 吳水雷團水雷艇隊 司令 朝日航海長 扶桑副長 遣兵監督官 人事局課員 軍令部第一局員兼元 帥副官(西郷元帥附屬) 技術會議員	山下源太郎 安岡淳吉 福井正義 今橋安就 牟田寛六 室田習三 杉坂虎次郎 谷雅四郎 西山實親 坂元宗七 川合昌吾 宇敷甲子郎 仙頭武央 石橋甫 廣瀨勝比古
-----------------------------------	--------------------	------------------------	---------------------	--------------------	---	------------------------------------	------------------------	--------------------	--------------------	----------------------------------	---------------------	--------------------	--------------------	------------------------------------	---	---	---

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三三一

0379

兵學校砲術教官 吳道兵廠檢査科長兼技術會議々員大學校教官	清國公使館附	初瀬副長	富士航海長	須磨副長	佛國駐在	英國公使館附	常磐航海長	初瀬航海長	軍令部第二局々員	英國駐在	常備艦隊參謀	軍令部第一局々員兼大學校教官參謀本部々員技術會議々員臨時建築部々員		
功勳正五六	勳正五六	功勳正五六	勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	勳正五六	勳正五六	勳正五六	勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	功勳正五六		
矢代 由德	西山 保吉	森 義太郎	名和又八郎	中川 重光	奧 宮 衛	村上格 一	川島令次郎	三上 兵吉	淺羽金三郎	莊 司 義 基	岩 下 知 克	小田喜代藏	小花 三 吾	外波内藏吉
八島航海長	橫須賀鎮守府參謀兼海軍望樓監督官 回航ノ爲メ出雲乘組	和泉副長	橫須賀水雷團水雷艇隊司令兼技術會議々員	佐世保水雷團水雷艇隊司令	橫須賀海兵團副長	待命 回航ノ爲メ吾妻乘組	橫須賀鎮守府副官	軍務局課員兼大學校教官	獨國公使館附	佐世保海兵團副長	英國駐在兼造船船監督官 佐世保兵器廠水雷庫主管			
功勳正五六	功勳正五六	勳正五六	勳正五六	勳正五六	功勳正五六	勳正五六	勳正五六	勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	功勳正五六	
山澄太郎三	山縣 文藏	釜屋 忠道	久保田彦七	藤本秀四郎	石田 一 郎	山本 正勝	山村彌四郎	築山 清智	荒川 規志	江頭安太郎	林 三子雄	山屋 他人	黒井悌次郎	田邊 直維

英國ニ於テ製造ノ 軍艦三笠回航委員	正六 勳五	有馬良橘	秋津洲副長	從六	水上泉德彌
人事局課員	正六 勳六	牛田從三郎	出雲航海長	從六 勳五	丙江口鱗六
吳海兵團副長	正六 勳六	矢島純吉	明石副長	從六 勳六	丙吉見乾海
回航ノ爲メ初瀬乘組	從六 勳六	藤田定市	軍令部第二局々員兼陸 軍大學校兵學教官	正六 勳六	水土屋光金
回航ノ爲メ朝日 乘組	正六 勳六	依田光二	兵學校運用術教官	從六 勳六	水茶山豊也
少佐	高等官五等		濟遠副長	從六 勳五	水曾良武雄
文庫主管	從五 勳五	水佐久間秀三郎	宮古副長	從五 勳五	白井幹藏
吳港務部々員兼吳 豫備艦部々員	從六 勳五	田口三平	臨時建築部支部員 兼舞鶴水雷團副官	從六 勳五	北野勝也
休職	從六 勳五	乙人見善五郎	大和副長	從六 勳五	水横田平作
佐世保豫備艦部部 員兼副官	從六 勳六	水遠山政行	葛城副長	從六 勳五	丙古谷忠造
舞鶴水雷團水雷敷 設隊司令	從六 勳五	水福島春長	横須賀水雷團第二 水雷敷設隊分隊長	從六 勳六	水藤野榮藏
佐世保測器庫主管	從五 勳五	航水加藤權太郎	佐世保水雷團長崎 水雷敷設隊司令	從六 勳五	水吉岡良一
佐世保水雷團佐世 保水雷敷設隊司令	從六 勳六	水森巨	吳水雷團第一水雷 敷設隊分隊長	從六 勳六	水山田亨
千代田副長	從六 勳六	水三戸與十郎	常備艦隊副官	從六 勳五	航丙伊藤乙次郎
艦政本部副官兼技 術會議幹事議員	從六 勳六	水坂元常英	淺間航海長	從六 勳六	航丙井内金太郎

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三三三

教育本部員兼軍務局課員 ● 勳六	野間口兼雄	吾妻航海長 ● 勳六	橋本又吉郎
佛獨兩國駐在 ● 勳六	丙 太田三次郎	水雷術練習所教官 ● 勳六	丙 緒方於菟男
皇族附武官(依仁親王) ● 勳六	丙 關野謙吉	兼技術會議々員 ● 勳六	丙 中山鋌次郎
附(兼八島砲術長) ● 勳六	水 秀島七三郎	高雄副長 ● 勳五	水 丙 中山鋌次郎
竹敷要港部第一水雷艇隊司令兼第二水雷艇隊司令 ● 勳五	丙 西垣富太	常備艦隊參謀 ● 勳五	水 田中盛秀
軍令部第三局々員 ● 勳五	丙 花房祐四郎	軍令部第二局々員 ● 勳五	水 丙 正戸爲太郎
富士砲術長 ● 勳六	丙 有森元吉	初瀬分隊長 ● 勳六	水 東郷吉太郎
兵學校航海術教官 ● 勳六	丙 石井義太郎	吳鎮守府兵事官 ● 勳六	水 原靜吾
兵學校監事兼筑波副長 ● 勳五	水 羽喰政次郎	武藏副長 ● 勳五	水 大立龜吉
東京造兵廠検査科長兼技術會議々員 ● 勳五	水 眞野巖次郎	橫須賀水雷團第一水雷敷設隊分隊長兼技術會議々員 ● 勳六	水 神宮司純清
八雲砲術長 ● 勳五	水 國枝勝三郎	軍令部第二局々員兼參謀本部々員 ● 勳六	丙 山口九十郎
佐世保水雷團馬公 ● 勳六	水 笠間直	兵學校副官 ● 勳六	水 米原林藏
雷艦長 ● 勳五	丙 山本竹三郎	敷島水雷長兼分隊長 ● 勳六	水 山田猶之助
朝日分隊長 ● 勳六	東郷靜之介 ● 勳六	吳海兵團分隊長 ● 勳五	水 河野左金太
橫須賀海兵團分隊長 ● 勳六	今井兼胤 ● 勳六	吳鎮守府副官 ● 勳六	丙 上野亮
吾妻水雷長 ● 勳六		艦政本部員兼副官 ● 勳六	水 荒尾富三郎

英國駐在 軍令部第三局々員兼大 學校教官水路部圖誌科 々員	造兵監督官兼初瀬 砲術長	軍令部第二局々員 兼技術會議々員	水路部圖誌科々員 兼測量科々員	英國ニ於テ製造ノ 軍艦三笠回航委員	比叡航海長兼分隊 長	教育本部々員兼副 官大學校教官	副官兼大臣秘書官	高千穂水雷長兼分 隊長	橫須賀測器庫主管	英國ニ於テ製造ノ 軍艦磐手回航委員	軍令部第一局々員	
● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	
丙	甲種丙	水	水	水	水	甲種水	水	水	水	水	甲種水	
上村翁輔	和田垣幸太郎	大澤喜七郎	柴 準 一	高島萬太郎	森 義 臣	鈴木貫太郎	枋内曾次郎	田中格次郎	土山哲三	秀島成忠	中島市太郎	
● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	
丙	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	
筑紫副長	電艦長	八雲航海長	皇族附武官(兼艦王附) 兼軍令部第一局局員	曙艦長	竹敷要港部副官兼 參謀	橫須賀水雷團副官	八重山副長	八雲水雷長	東雲艦長	漣艦長	叢雲艦長	常備艦隊附
● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六
丙	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
成富寅吉	吉島重太郎	千坂智次郎	釜屋六郎	河瀨早治	稻葉宗太郎	廣瀨順太郎	下村亮太郎	水 町 元	磯 部 謙	竹内次郎	松岡修藏	嘉仁親王
● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六	● 從六
丙	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
一條實輝	岩村團次郎	佐世保鎮守府兵事 官	橫須賀鎮守府兵事 官	公爵	一條實輝	佐世保鎮守府兵事 官	橫須賀鎮守府兵事 官	公爵	一條實輝	佐世保鎮守府兵事 官	橫須賀鎮守府兵事 官	公爵

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三三五

八島分隊長	大勳位 功五	依仁親王	吳造兵廠検査科主 幹	從六	乙種水丙	川浪安勝
軍令部出仕	從六 功五	小笠原長生	敷島砲術長兼分隊長	從六	砲水丙	山中柴吉
常備艦隊參謀	從六	財部 彪	鎮遠航海長兼分隊長	從六	乙種水丙	堀内權三郎
朝日砲術長	從六 甲種水丙	竹下 勇	出雲砲術長兼造兵 監督官	從六	砲水丙	松井健吉
常備艦隊參謀	從六 功五	小栗孝三郎	敷島分隊長	從六	丙	高木七太郎
英國ニ於テ製造ノ 軍艦警手回航委員	從六	中村虎之助	兵學校運用術教官 兼監事	從六	水	向井彌一
常備艦隊參謀	從六	中野直枝	嚴島砲術長兼分隊長	從六	砲	町田駒次郎
富士分隊長	從六 功五	岡田啓介	軍務局課員	從六	乙種水	眞田鶴松
八島水雷長兼分隊長	正功五 功六	高松公冬	砲術練習所教官兼分隊長 機噐學校教官兼要塞砲兵別 擊學校教官	從六 功五	乙種水 水丙	淺野正恭
臺灣總督府海軍副 官	從六	市原卯之助	臺灣總督府海軍參 謀兼總督府副官	從六	水	片岡榮太郎
艦政本部々員	從六	森 越太郎	佐世保海兵團分隊長	從六	乙種水 乙種航丙	大野仁助
軍令部出仕	從六 功五	中村松太郎	兵學校砲術教官兼 監事	從六	乙種砲丙	山口泰次郎
吾妻分隊長	從六	廣 渡 顯一	金剛航海長兼分隊長	從六	丙	布目滿造
皇族附武官(威仁 親王附)	從六 功五	木 村 剛	吳豫備艦部部員兼 副官	從六	功六	溝口武五郎
富士水雷長兼分隊長	從六 功五	内田良隆	人事局課員	從六 功五	水	吉川孝治

英國ニ於テ製造ノ 軍艦三笠回航委員	豐橋分隊長	松島航海長兼分隊長	常磐水雷長兼分隊長	笠置航海長兼分隊長	兵學校航海術教官 兼監事	軍令部第一局々員兼水 路部圖誌科々員	常磐砲術長	千歳航海長兼分隊長	八雲分隊長	水路部圖誌科々員 兼測器科々員	出雲分隊長	淺間水雷長兼分隊長	淺間砲術長	水雷術練習所教官 兼分隊長
從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六	從六
丙		乙種丙 航海	水		丙		丙	丙	水	水	水	乙種水 砲	乙種 砲	水
朝倉耕一郎	大石士郎	山口彌吉	小林惠吉郎	小黑秀夫	岡野富士松	志津田定一郎	堤虎一郎	志摩猛	原篤慶	江副武靖	金子滿喜	大島正毅	山崎米三郎	大森金二郎
兵學校水雷術教官 兼監事	隴艦長	吉野航海長	大尉	舞鶴水雷團水雷敷 設隊分隊長	竹敷安港部第一水雷敷 設隊分隊長兼第二水雷 敷設隊分隊長	水雷術練習所教官 兼分隊長	教育本部々員兼副 官	龍田水雷長兼分隊長	露國駐在	大島分隊長	富士分隊長	横須賀豫備隊部員 兼副官港務部員副官	兵學校航海術教官 兼監事	兵學校航海術教官 兼監事
從六	從六	從六	從六	正七	正七	正七	正七	正七	正七	正七	正七	正七	正七	正七
水	水	水	高等官六等	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
近藤常松	松永光敬	九津見雅雄	佐多直道	丹羽千太郎	香月輝彦	奧田貞吉	大久保朝徳	廣瀬武夫	岡田平次	鈴木多吉	加治嘉太郎	丸橋彦三郎	兼子昱	

第一編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三三七

戰四三

0385

豐橋乘組	正七	水	中島源藏	不知火艦長	正七	限元通純
夕霧艦長	正七	水	富士本梅次郎	筑紫分隊長	正七	山口徳四郎
水路部測量科々員	正七	水	田中銃郎	和泉分隊長	正七	白井兼太郎
兼葛城航海長	正七	水	村松亥四松	軍令部出仕	正七	平原文三郎
佐世保水雷團水	正七	水	石川壽次郎	愛宕分隊長	正七	下條小三郎
雷敷設隊分隊長	正七	水	永田泰次郎	軍令部出仕	正七	仁禮景一
佐世保鎮守府參謀	正七	水	櫻井吉丸	米國駐在	正七	井出謙治
兼艦政部々員	正七	水	松村卯三郎	皇族附武官(博恭王附)	正七	平岡貞一
海雲艦長	正七	水	有馬律三郎	兼淺岡分隊長	正七	乙種航
陽炎艦長	正七	水	武部岸郎	運送船監督官	正七	乙種航
佐世保海兵團分隊長	正七	水	土田象太郎	兵學校航海術教官兼監事	正七	水
嚴島水雷長兼分隊長	正七	水	櫻野光正	兵學校砲術教官兼監事	正七	乙種砲水
兵學校水雷術教官兼監事	正七	水	荒西鏡次郎	吉野分隊長	正七	乙種航
橫須賀水雷團水雷艇隊艇長	正七	水	荒西鏡次郎	兼須賀鎮守府參謀兼艦政部々員東京海軍參謀	正七	水
秋津洲砲術長兼分隊長	正七	水	荒川仲吾	朝日分隊長	正七	水
兵學校運用術教官兼監事	正七	水	嘉村秀一郎	佐世保水雷團副官	正七	水
佐世保海運部々員	正七	水			正七	
佐世保水雷團長崎	正七	水			正七	
水雷敷設隊分隊長	正七	水			正七	

須磨航海長	● 正七	水	菅 哲一郎	扶桑分隊長	● 正七	乙種水	塚本善五郎
軍令部第三局 々員	● 正七	水	田中耕太郎	軍令部第三局々員	● 正七	水	眞崎安一
横須賀海兵團分 隊長兼鎮北乘組	● 正七	水	山崎金一	常警分隊長	● 正七	水	柳原忠三郎
高千穂航海長兼 分隊長	● 正七	水	平田得三郎	吳鎮守府參謀兼 艦政部々員	● 正七	水	野村房次郎
松島水雷長兼 分隊長	● 正七	水	笠島新太郎	鎮邊艦長	● 正七	水	吉田増次郎
吳水雷團第二水 雷敷設隊分隊長	● 正七	水	小林辰之助	濟遠水雷長兼 分隊長	● 正七	水	徳田道藏
待命	● 正七	水	石井増喜	吳鎮守府副官	● 正七	水	廣瀬弘毅
鳥海分隊長	● 正七	水	若林 欽	鎮中艦長	● 正七	水	川原袈裟太郎
天城分隊長兼 航海長	● 正七	水	田中茂藏	八雲分隊長	● 正七	水	西尾雄次郎
人事局課員	● 正七	水	堀江長吉	八重山水雷長兼 分隊長	● 正七	水	幸田銈太郎
東宮武官	● 正七	水	山路一善	横須賀鎮守府副官	● 正七	水	山岡豊一
佛國駐在	● 正七	水	森山慶三郎	臺灣總督府海軍 參謀兼副官	● 正七	水	下平英太郎
吳鎮守府兵事官	● 正七	水	石井力三郎	竹敷要港部第二 水雷艇隊艇長	● 正七	水	河田勝治
千歳水雷長兼 分隊長	● 正七	水	並木寅之助	運送船監督官、臺 東丸	● 正七	水	高橋鎗吉
横須賀兵器廠水 雷庫主管	● 正七	水	笹岡千代松	常警分隊長	● 正七	水	堀内三郎
	● 正六				● 正六		

第三編 第十七項 艦船ノ準備 附人員ノ補充

三三九

0387

竹敷要港部第一 水雷艇隊長	竹敷要港部第二 水雷艇隊長	秋津洲航海長	英國駐在	軍令部副官	明石航海長	軍務局課員	八島分隊長	兵學校運用術教官 官兼監事	警城分隊長	兵學校運用術教官 兼監事筑波分隊長	兵學校運用術教官 官兼副官	佐世保鎮守府副官	横須賀水雷團水 雷艇隊長	横須賀水雷團水 雷艇隊長	横須賀水雷團水 雷艇隊長	横須賀水雷團水 雷艇隊長	
正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳五	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳五	正七 勳五	正七 勳五	正七 勳五	
水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	
南里團一	高木東太郎	馬場祐内	秋山眞之	田所廣海	田中行尙	小山田仲之丞	西禎藏	井原頼一	蜂逸平	白石直介	久保來復	大瀧道助	澤崎寛猛	齋藤半六			
鎮遠水雷長兼 分隊長	千代田水雷長兼 分隊長	軍務局課員	敷島分隊長	摩耶分隊長	軍令部第一局々員	横須賀水雷團水 雷艇隊長	高砂航海長兼 分隊長	赤城分隊長	佐世保水雷團水 雷艇隊長	佐世保海運部々員	休職	竹敷要港部第一 水雷艇隊長	兵學校水雷術教官 兼監事筑波分隊長	竹敷要港部第一 水雷艇隊長	竹敷要港部第一 水雷艇隊長	竹敷要港部第一 水雷艇隊長	竹敷要港部第一 水雷艇隊長
正七 勳五	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	勳一	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六	正七 勳六
乙種水	水	乙種航	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
青山芳得	井手篤行	山口銳	千秋恭二郎	原要次郎	菊鷹王	土屋林二郎	福田昌輝	篠原利七	大山鷹之助	和田幸次郎	吉田辰男	岸久太郎	菅野勇七	水登鋸男			